

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

DNAメチル化とポリアミン代謝 に着目したサルコペニア研究

中枢性老化-骨格筋代謝-運動機能制御研究プロジェクトチーム

大藪 葵 日本学術振興会特別研究員PD

2026年1月15日（木）15時10分～
第1研究棟2階大会議室

超高齢社会を迎えた我が国において、加齢に伴う骨格筋の量と機能の低下であるサルコペニアの予防・改善は解決すべき喫緊の課題である。しかしながら、加齢に伴ってなぜ骨格筋が衰えていくのか、その分子病態に関しては不明な点が多い。また、生体内栄養素代謝によってどのように骨格筋量が維持されているのかについても詳細は不明である。本セミナーでは、筋老化制御におけるDNAメチル化と筋量の維持におけるポリアミン代謝の役割について、最近の知見を紹介し、骨格筋制御における栄養素代謝・エピゲノム修飾の役割について議論したい。